



第六号
平成23年4月13日
発行
熊本市高平2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義昭

松本喜三郎墓前祭 谷汲観音像供養大祭

平成二十一年度、観音像の修復が終わった年から、檀家の皆様にも案内を始めました喜三郎墓前祭を、今年も例年通り開催致します。

墓前祭は、松本喜三郎顕彰会が中心となり開催していたのですが、観音像の百年に一度の修復を機会として、檀家の方々にもご縁を結んで戴きたく、修復に關しての寄進をお願い致しました。その際、修復記念の點眼法要を墓前祭の日に行いました。観音様の縁日は本来十月十八日ですが、当日に同じ松本喜三郎作の来迎院安位の聖観音像の観音祭が開かれていましたので、浄国寺の谷汲観音様の供養祭は墓前祭の四月二十九日に開催する

事に致しました。

松本喜三郎墓前祭 谷汲観音供養大祭

日程詳細は左下をご覧ください。

松本喜三郎翁は、文政八年、熊本市の現在の迎町に生まれ、若い頃から造り物に長けていて、二十四歳で大阪に登り、その後上京、浅草で活人形師として興業も手がけ、一大ブームを巻き起こしました。江戸幕府の寺請制度から言うと、松本家は、浄国寺の正式な檀家ではありませんが、お墓は浄国寺に有り、喜三郎翁自身も現在浄国寺墓地の松本家のお墓に眠っています。当寺安置の谷汲観音像は、本人にとっても会心の作だつ

たらしく、見世物興行には別途に一体作り、この観音像は最初から仏像として浅草の伝法院に祀られました。後年、喜三郎翁本人が熊本に帰られた後に、「どうしても、谷汲観音像だけは手許に置きたい」と望まれ、伝法院との交渉の末、陸路、行列を組んで浄国寺に入られました(その時、熊本市春日の来迎院の縁者が交渉に苦労されました。そして、その感謝の意で来迎院には聖観音像を喜三郎翁が造り寄進されました)。長い間、見世物興行の人形ということ、下世話な物として芸術作

品という視点では捉えられなかつたのですが、人形師の平田剛陽氏の評価等を経て、近年、脚光を浴びるようになり、熊本市現代美術館の展示から人から知られるようになりました。特に昨年十月、NHK衛星ハイビジョンで放映された「勇前列伝」から、土日には必ず参詣者が来られるようになりました。「折角なら、拝観料をとつたら?」「御守りやグッズを販売したら?」と言つて下さる方もおられます。私としては、これだけの作品ですので多くの方に知って戴きたいという気持ちはあります

が、観光地にしたいとは思いません。谷汲観音は西国三十三箇所観音靈驗記の第三十三話「谷汲寺縁起」に書かれているもので、観音様が人間の巡礼の姿を借りて人の前に現れ救済したというお話です。観音様は、正しくは観世音菩薩といえます。般若心経の最初に出てくる観自在菩薩も観音様のことです。本来は悟りを開き仏の世界(涅槃)に渡るべき仏様ですが、敢えて娑婆(我々の苦しみを満たす世界)に留まり、他者を涅槃に渡す事を自分の務めとされています。

松本喜三郎墓前祭(百二十一回忌)

谷汲観音 供養大祭

日時 平成二十三年四月二十九日(金)

午後一時より 入場無料

法要終了後 シンポジウム「他の宗教から見た日本の仏教と禪」

真命山諸宗教対話 交流センター フランコソット「ルラ神父」

観音大祭 記念奉納音楽会

同日 夜七時より

演奏 鈴木良雄トリオ

(東京のジャズの重鎮による)

円熟した演奏をお楽しみ下さい)

協力金 三千円(一部は東日本大震災義捐金 にさせていただきます)

そして、何も見返りを考えず他の人のために善行をする事を菩薩行と言います。いつの間にか、何でも貨幣価値に換算して対価報酬を求めるようになった今の日本にこそ、菩薩行は必要なのではないでしょうか？東日本の大震災で被害に遭われた方には、心よりお見舞い申し上げます。亡くなられた方の冥福を心よりお祈り申し上げます。ただ、今回の震災を契機として日本人が少し菩薩行に目が向いた来たような気がします。見返りを期待せずに、何か人のために自分ができる事を行う事は、我々が最も大切にしたい所です。

観音供養 奉納音楽祭

毎年、喜三郎墓前祭の時は、音楽会を開催してきました。喜三郎翁は興業師でもあったから、人が集って楽しむ姿を御供えする事は供養になるはずだと言う私の勝手な解釈によるものです。一昨年の九月に浄国寺で演奏をしてくれたベースの鈴木良雄氏が、その直後「南里文雄賞」という日本人ジャズマンの栄誉ある賞を受けられました。その記念

演奏会の時に、今度は「あなたの都合に合わせて、あなたの好むメンバーで九州ツアーを組んであげるよ」と言われました。最初は冗談と思っていたのですが、本当に実現してしまいました。決して難解なジャズではなく、みんなが知っているスタンダードナンバーを、円熟した技術で、それこそ、ご機嫌な演奏を披露してくれます。絶対に損はしません。新しく床を貼り替え、音響の効果も良くなつたお寺の本堂で素敵なジャズをお楽しみ下さい。

鈴木良雄 トリオ
山本 剛 ピアノ

セルシ・モンロー ドラム
ジャズのスタンダード曲を堪能して下さい。

演奏奉納料 一人二千元
(チャージ料 一部は震災義捐金に致します)



永代供養型納骨壇の設置

浄国寺には、入って左側の建物の二階に納骨堂があります。現在地に移転した時に境内に墓地を造る事ができなかったため、一部は裏の丘にある浄国寺墓地と境内地に納骨堂を造りました。十数年前に、坐禅堂も兼ねた座敷と納骨堂は一棟にまとめて、二階が納骨堂で下が法事にも使用できる座敷という建物にしました。その際納骨壇を新たに大理石風の大きい物に変更し、元からあった木製の納骨壇から、順次移っていた大き木製の納骨壇は一時預かり等にも使用しています。新たに造つた大理石風の納骨壇も、あと数基しか残っていない状態で、同じ規格で増設する計画もしております。一方で、「永代供養の納骨堂は、おいくらですか？」という質問を受ける事が多くなりました。先祖の供養は子孫の務めで、寺に任せるとはいいがなものと私も思い、「供養できる人がいる間は、その人がして下さい。もし、供養できないような状況になったら、合祀して寺で供養します」と

答えてきました。しかし、現在は、「家」の制度も変わり、一族の墓という考えから家族の墓(納骨堂)という風に変化し、更に子どもが居ないと、全員娘で嫁いでいったら自分の墓を管理できないという状況も増えてきました。夫婦二人だから、大きい納骨壇はいらない、また合祀されるのも辛い、二人とも居なくなつたらお寺できちんと管理してくれるようなシステムと納骨壇ができないかという相談も増えてきました。時

代と共に供養の形が変わっても、安心して自分の人生を全うしたいという気持ちは大切だと思ひ、二階の納骨堂に永代供養型の納骨壇を設置しました。ご遺骨を百体ほど個別に収め、扉に位牌を並べて収めます。お詣りに来られた時は、その位牌を真ん中のお釈迦様の所に供え礼拝するような形になります。無論、永代供養になりますから、命日等は寺の勤行中に務めます。

今月二十三日には、設置完了予定です。納骨堂は、平日は朝八時から夕方五時まではいつでも開けています。大きい納骨壇は、必要じゃないと考へられた方は、一度検討されても存じます。また、今までの納骨壇も更に増設の計画もしています。



写真は若干、実物とは異なります

今月二十三日には、設置完了予定です。納骨堂は、平日は朝八時から夕方五時まではいつでも開けています。大きい納骨壇は、必要じゃないと考へられた方は、一度検討されても存じます。また、今までの納骨壇も更に増設の計画もしています。